

新たな都市活力推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和6年8月26日（月）～8月27日（火）

2 視察先及び視察事項

（1）滋賀県守山市

滋賀みらい共創サミットについて

（2）京都府

産業創造リーディングゾーンZET-valleyについて

3 視察委員

委 員 高 橋 正 治

同 中 島 光 徳

視察概要

1 視察先

滋賀県守山市

2 視察月日

8月26日（月）

3 対応者

市議会議長（受入れ挨拶）

市議会事務局職員（案内）

都市経済部企業連携室課長（説明）

同 係長（説明）

4 視察内容

（１）滋賀みらい共創サミットについて

ア 滋賀リビングラボ構想

村田製作所職員及び守山市コワーキングスペースオーナーを代表理事とする一般社団法人 co.shiga により、地域の課題や声を地域、企業で解決するリビングラボ構想を動かしている。理事には県内銀行、企業、まちづくり会社などが参画しており、今後サポート企業を増やしていく方針である。守山市は、参画者の立ち位置となるため、理事などにはなっておらず、民間主導事業に賛同、参画し支援している。

イ 滋賀みらい共創サミットの開催趣旨・目的

滋賀みらい共創サミットは、滋賀リビングラボ設立に向けた活動の共有及び設立後に市内外の関係者や市民にオープンに関わってもらい、地域×共創をコンセプトにして、2024 年中にリビングラボの運営体制（一般社団法人等）の確立につなげていくことを目的に開催された。

ウ 質疑概要

Q 村田製作所はどのように滋賀リビングラボ構想に関わっているのか。

A 市民や地元、関係者の方々に理解が得られるよう、守山市、村田製作所及び一般財団法人の三者が連携して取り組んでいる。2021年から用地取得に向けた協議を開始した。

Q 守山市は、リビングラボにおいてどのような役割を担っているのか。

A 的確な所につなぐ（共創する）、主体性を促すなどの役割である。

Q 守山市は地の利や風土の影響が強いと思うが、その点はどのように考えるか。

A 琵琶湖や野洲川の恵みに支えられ、水辺の自然環境があり住みやすく、アイデアも豊富に創造する風土があると考えている。

（２）委員所感

リビングラボが目指すのは、地域課題の解決の先にある生業だと考える。公（行政）の役割は地域課題の解決のための情報収集によるバーチャルな協議の場を創出することであり、データは新たな土壌として、イノベーションはリアルな協議の場で行われる。

近郊には京都府や大阪府があり、企業連携と商工観光では、起業家が集まる守山市を目指して、６部署が取り組んでいる。今後の人口ビジョンでは2040年まで人口増加が予測され、企業誘致では村田製作所が令和８年に西日本最大級の研究拠点の竣工を予定している。

地域企業や住民が中心となって地域課題を解決した事例など、企業・町内会・商店会・団体が行政と連携し、行政主導ではなく住民主導の取組の意識が高いと感じたため、今後の動向を注視していく。



(会議室にて)



(守山市役所前にて)

視察概要

1 視察先
京都府

2 視察月日
8月27日（火）

3 対応者
議会事務局議事課職員（案内）
商工労働観光部産業振興課長（説明）
同課職員（説明）

4 視察内容

（1）産業創造リーディングゾーンZET-valleyについて

ア ZET-valley 構想について

2020年2月に京都府として、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを宣言した上で、具体的方策として府政運営の指針である京都府総合計画を改定し、脱炭素社会の実現に向けた実行力ある取組としてZET-valley 構想を打ち出した。ZET-valley 構想とは、京都産業の強みを生かすとともに課題の解決を図り、まちへの脱炭素テクノロジーの技術導入により、新事業創出と社会実装の推進を通じてカーボンニュートラル社会の実現を目指す取組である。

イ 京都府の産学公連携・新産業創出プロジェクトについて

京都府の脱炭素やクロスメディア、アート&テクノロジーなどの取組が先行しているリーディングゾーンでは、テーマに応じたオープンな研究会を立ち上げ、大企業からスタートアップまで多様な企業が参加するとともに、大学などをはじめとする研究機関にも参加してもらいながらオープンな交流が行われている。また、研究会の参加者により、具体的な新技術や新製品の開発などを目指す共創プロジェクトも数多く立ち上がっている。

ウ 質疑概要

Q スタートアップが多いのは、大学数が多く、研究力があるためか。

A 大学が40校以上あり、産学公連携による成果だと考える。

Q 社会課題を解決するにはオープンイノベーションと企業の集積

が必要であると思うが、どのように取り組んでいるのか。

A 伝統産業から先端産業まで多様な業種が集積し、京都産業の強みを生かした産業創造リーディングゾーンを展開している。

Q 投資家への情報発信は重要な要素だと思うが、どのように考えているのか。

A 大変重要だと考えており、投資家向けに、世界のスタートアップ関係者が一堂に集まる国際スタートアップ・カンファレンスを開催し、約2200人の起業家や投資家などを含む1万人以上が参加し大成功した。

(2) 委員所見

京都府中央エリアをZET-valleyと位置づけ、つながりを創出しており、研究に対する姿勢が常態化していることが大学発の強みと感じた。そして京都の持つものづくりに対する風土の強さを感じた。



(京都府議会にて)